

第 16 回 発 表 集 会 印 象 記

富山県保険課 熊谷 武夫

第16回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会は2月6日(土)13時15分から、厚生連高岡病院2階の地域医療研修室(I)で開催されました。

数日来降り続いていた雪が、午前中で止んで晴れ間が広がる中を、三年がかりの工事が終わり、新病棟が完成して明るく広々と模様替えした病院に、北陸三県の各地から約70名が参加しました。

先ず今年度の総会で新会長に就任された豊田 務先生の開会のご挨拶があり「農村医学の研究対象は当初の農夫症から、昨今では高齢者対策へと変貌してきたが、今回からは県内に限らず、北陸三県の関係者にも参加を求めたところ、石川県からも二題の申込みがあった。本日の発表集会の成果を期待している」と話されました。

13時21分から熊谷が座長で会員発表に移りました。

第1席の厚生連高岡総合検診センターの坪野さんが「肥満者が体重増加を続ける要因を探る」と題して、平成10年の春から秋にかけて検診を受診した、三年間継続受診者 1,553人についてアンケート調査の結果を報告されました。

平成8年度の検診で肥満度10%以上だった人で平成10年度までに体重の増加した群と同じ期間で減少した群について、肥満の原因、肥満の自覚、減量の必要性、減量の実行等について調査が実施された結果、体重が増加を

続ける群の人々は、肥満を自覚しながら、減量の必要性を認識していなかったと報告されました。

滑川病院の小川先生は「男性の肥満は飲酒行動と深く関係している」と発言されました。

第2席は日本健康倶楽部の黒牧さんで、「富山県における飲酒様態調査」を報告なさいました。

平成3年にも同様の調査を実施したことのある、県内のコンピューター関連企業の定期検診の際に実施されたアンケートでは、対象者の学歴は高く、飲酒の動機については平成3年には「つきあい」とした人が多かったが、平成10年は「楽しみ」とした人の方が「つきあい」を上回り、飲酒の場所は先には「飲み屋」が多かったのに、今回は「自宅」が一位になったことを報告されました。

男性においては以前から社会生活での飲酒の機会が多いわけですが、このご報告を聞いて、昨今の不況が飲酒の仕方にも影響を及ぼしているように思われました。

第3席は滑川病院長の小川先生が「検診発見胃癌からみた胃癌検診の精度と効率について」をご報告になりました。

滑川総合検診センターで昭和63年以降の10年間に実施された胃癌検診55,847件について精度・精検率・高齢受診者の不便・X線被爆の危険性等を分析され、今後は現行の胃癌検診は ①癌の既往・多発家系・癌に侵され易い生活習慣の保有者やペプシノーゲン陽性者、

ヘリコバクター抗体の保有者を対象者とする、②40才以上の者に限ると提案されました。

そして、③第一次スクリーニング陽性者、若年者、有所見者、有自覚症状者、ペプシノーゲン陽性者には積極的に内視鏡検査を実施する。④X線と内視鏡を組み合わせた管理検診、⑤検診間隔の再検討が必要であると話されました。

演者も言われたとおり、胃癌検診の利点は大きく、早期胃癌の発見も確実に成果が上がっていますが、先生のご提案が検診の現場に取り上げられて、検診の精度が更に向上することを希望しております。

第4席の吉岡さん(高岡病院2病棟5階)は「健康観の変化が日常生活習慣に及ぼす影響」と題して、高血圧症・糖尿病等の「生活習慣病」に罹患した100名を対象として、病前と病後での健康観の変化の有無を調べ、これが変化した群と変化の無かった群について、それぞれの生活習慣の状況を調査されました。

有効回収数は58、健康観が変化した者は24、変化しなかった者は34で、喫煙・飲酒については健康観の変化した群のみに摂取量が減っていたこと。インスタント食品の摂取量も前者が減少したこと。また前者では運動量が増加していたことが報告されました。

演者はこの結果を患者の生活習慣改善に係わる保健指導に役立てたいと話されました。

14時16分からは高岡病院の鹿野先生が座長を勤められました。

第5席の岸さん(滑川総合検診センター)は「滑川センターにおける骨密度検診の検討(第二報)」を発表されました。

第一報は平成8年のこの集会で報告されましたが、今回は平成10年の1年間に受診した者695名の内の、女性のみを対象として、骨密度の高い群と低い群に分けて検討が行われました。

そして女性では40才台後半からの骨密度の減少と、閉経後3年以内の減少率が大きいこ

とが報告されました。

討論では、今後30才台の受診者を増やすこと、検査間隔は3～5年が適当である等の意見がありました。

今回は教育講演として、富山県衛生研究所の西野治身博士が「骨粗鬆症検診における骨代謝マーカー測定の意義」をご講演になりました。

鹿野先生が引き続いて座長をなさいましたが、西野先生は骨形成マーカーとしての骨型アルカリフォスファターゼ・オステオカルシン、骨吸収マーカーとしてのヒドロキシプロリン・ピリジノリン等の測定値と骨密度の変化の関連性について講演されました。

骨吸収と骨形成のアンカップリングの結果骨塩量が減少すること、骨粗鬆症の予防は若い内に最大骨量を増やすことであり、若い女性は骨粗鬆症を自身の問題として捉えて欲しいと話されました。

15時10分からは渡辺正男先生が座長をされて、第6席「体圧分散寝具の皮膚血流に関する検討」が発表されました。

高岡病院3病棟2階の西尾さんは、経皮酸素・炭酸ガス分圧測定装置を用いて、仙骨部の血流量を測定して、エアマットやボンマットの有用性を検討されて、エアマットは褥瘡の予防・治療に有効であり、絶対安静の期間はエアマットを使用すべきであるとされました。

第7席は今回初めて参加された金沢西病院保育所の毛利さんで「発達のためやすとおもちゃ」の発表がありました。

この保育所はいわゆる企業内保育所で、0才から2才児を保育しておられる中で、子供さんのいたずらや遊びが、子供自身の運動機能の発達に関係が深いことに注目されて、発達段階に適した玩具を与えることにより、みずからの創造力や運動機能をはぐくめるように、種々のおもちゃを工夫し、手づくりで製作されて保育に活用なさっておられる状況を

豊富なスライドを用いて報告されました。

第8席は福光中央農協の中田さんが、「高齢者助け合い組織（日だまり会）の活動について」を口演されました。

日だまり会は福光町のヘルパーの資格をもった方々の組織で、農村部の集落ごとにミニ託老所、ふれあい会、声かけ運動等を実践されておられる様子をご報告になりました。

介護保険の導入を前にして、保健福祉サービスの充実が問題となっていますが、福光町ではまだ十分な対応はなされていないと話されました。

第9席、厚生連健康管理課の山下さんは「今後の介護教室のあり方」を発表されましたが、現在農協で取り組んでおられる介護教室はヘルパー養成にかかわるもので、農協女性部会員が対象とあって、男性の参加はなく、会員からは男性も対象とした介護教室が必要であるとの意見がでました。

また高齢者自身も介護の知識が必要であり、今後は老人会を対象とした教室を開催してはどうかという意見もありました。

第10席以降は滑川病院の小川先生が座長をなさいました。

金沢西病院の蔵さんは「妻の在宅看護を行っている夫と妻の関わりを通じて」を発表なさいましたが、月1回の通院で在宅療養をしている87才の女性に、週1～2回の訪問看護指導を行い、その際に、患者さんばかりでなく、介護者であるご主人にも十分な面接を実施して、デイサービスの活用を勧めるばかりでなく、ご主人の不安の解消等につとめられた事例を報告されました。

在宅療養や在宅介護の現場においては、対象者のみならず、介護者の健康管理が重要ですが、今でも健康者は医療の対象とされないため、医療機関の看護婦さんが、保健指導をなさることは稀なので、興味深く拝聴しました。

第11席は豊田会長が『看護職員の「老・病・

死」に対する真情 第2報』を口演なさいました。

前回は平成7年に厚生連高岡病院で実施され、第13回の集会で大浦さんがご発表になりましたが、今回はいわゆる老人病院と老健施設の職員の意識調査でした。

座長の小川先生は急性期医療と老人医療の現場の相違であろうと話されましたが、前回は看護学生さんも対象となっていましたので回答者の年齢構成の相違もあるようにお聞きしました。

第12席は農医研の渡辺先生が「農村高齢者の生きがいに関する意識調査（続報）」を発表なさいました。

先生は平成6年と7年に富山県をはじめとする全国七つの道と県で農協共済総合研究所が実施した「農村における老化とその対応」のアンケート調査の回答1373件の分析をなされて「全体的には生き甲斐をもって生活している高齢者は多くの設問について、前向きな回答をしていることが明らかにされた」とお話しになりました。

この資料が今後の高齢者問題の解決に活用されることを期待いたします。

第13席の大浦さんは『「命の営み」との関わりの実態（第2報）」を発表されました。

昨年（第1報）では、「子供時代に記憶に残る生き物の世話をした経験」についてアンケート調査が実施されて、対象者の8割は「子供時代に生き物の世話をした経験が人生に良い影響を与えた」と考えており、また現在、生き物を世話している人は、命の営みに感動する傾向が、そうでない人よりも強かったと報告されました。

今回は富山大学の学生389名を対象に、アンケートを実施され、さらにその内の83名に前頭前野の機能を反映するとされる「かなひろいテスト」を実施された結果について報告されました。

そして「現在生き物の世話をしている命の

営みに感動している者の群」の成績が、そうでない者の群の成績をはるかに上回っていたと結ばれました。

最後に越山先生が「今回は菊地先生の病院のご発表と、西野先生の教育講演が印象深かった」と挨拶され、17時10分に閉会しました。

今回も、保健福祉の分野を含めた演題が、種々の職種の方々から発表され、休憩時間も

惜しんで活発に意見が交換されて、有意義な集会でした。

今回新たに参加された石川県の皆様を含めて、会員の皆様のますますのご活躍を祈念し、お世話頂いた大浦さんをはじめ事務局の皆さんに深く感謝して稿を終わります。

(1999-02-10)